2019

J・A・C

（第 47 号）

千葉支部だより

令和元年 7 月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部

発行者　松田　宏也

編集者　吉野　聰

E-Mail　cib@jac.or.jp

（表紙の絵）「佐渡の山と海」

水彩画　小菅一弘　作（敬称略）

平成 30 年度事業・決算報告、令和元年度事業計画・予算・新役員　満場一致で承認

5 月 12 日（日）　　三田　博

令和最初となった千葉支部の通常総会が 5 月 12 日（日）、千葉市文化センターにて行われた。平成 30 年度事業及び決算・監査報告と令和元年度事業及び予算、新役員人事について審議され、原案通りすべて満場一致で承認可決された。総会には会員 32 名と会友 5 名が参加、会員からの委任状出席は 33 名だった。総会終了後には、日本山岳会元副会長で東京多摩支部の神崎忠男さんの「日本山岳会の歴史と支部活動に期待すること」と題した記念講演があり、改めて日本山岳会の成り立ちから現在の我々を取り巻く登山界の諸問題まで幅広い話が語られた。

また、午後からは恒例の懇親会に代わり、昨年度秩父宮記念山岳賞を受賞された小疇尚先生の受賞のお祝いの会が「美弥和」で開かれ、37 名が参加した。

≪参加者≫

髙橋正彦、節田重節、吉永英明、黒田正雄、篠﨑仁、塩澤厚、小疇尚、坂上光恵、大澤雅彦、松田宏也、石岡慎介、櫻田直克、佐藤明夫、津田麗子、岩尾富士夫、諏訪吉春、三木雄三、谷内剛、安間繁樹、上村紀子、湯下正子、青木次郎、山本哲夫、廿楽敦夫、三田博、山田紀夫、香高真奈美、杉本正夫、小林義亮、三品京子、齋藤米造、小川和敏、宇津木仁典、川島辰雄、平出正美、神山良雄、渡部孝雄、神崎忠男（講師）

新支部長に松田宏也会員を選出

総会において支部役員８名､協力委員４名が選任され､在任中を含めて本年度の体制は支部役員 15 名、協力委員５名となり、新支部長に松田宏也会員を選出した。

２期４年支部長を務められた三木さん、大変おつかれさまでした。新支部長になられた松田さん、よろしくお願いいたします。

令和元年度千葉支部執行体制

支部長	松田宏也	事務局	三品京子、廿楽敦夫
副支部長	山口文嗣	山行委員会	◎三田博、山口文嗣、山本哲夫、山田紀夫、杉本正夫、小川和敏、三品京子、上村紀子
事務局長	三田博		
顧問	吉永英明	公益事業委員会	◎三木雄三、香高真奈美、能美勝博
監事	塩澤厚、髙橋正彦	自然保護委員会	◎谷内剛、三木雄三、安間繁樹、鈴木美代
会計	三品京子	広報委員会	◎吉野聰、山本哲夫、小川和敏、谷内剛

記念講演　　日本山岳会元副会長・東京多摩支部　神崎忠男さん

支部総会の記念講演で、神崎忠男さんは自らを「山岳原理主義者」と話した。30 ページに及ぶ講演資料を用意して頂き、日本山岳会の創設期から様々なエピソードを交えて語られた。

日本山岳協会元会長や日本山岳会元副会長など登山界で要職を務め、エベレスト登山隊などで活躍した岳人だが、語り口は軽妙洒脱。神崎さんは「私の JAC は 100 周年で終わった」「今の JAC はハイキングクラブだ」などと現状を憂う発言が飛び出した。それは、日本山岳会が再び日本の登山界の中心で活躍すべきと聞こえた。先鋭的な登山ばかりでなく、山登りを通しての社会貢献や自然保護を始め様々な分野で主体性をもって活躍すべし、と我々会員を叱咤激励してこその事と捉えた。

話題も豊富で小学校の PTA 会長をした話や、また自ら挑んだ「三つのヘソ（南極・北極・エベレスト）」探検を謙虚に話されたことが印象的だった。

講演を聞いたある会員は「会員なら知っていなければならない登山の歴史を色々聞くことができてとても良かった」と話していた。

≪神崎忠男さんプロフィル≫　1940 年、東京生まれ。日大二高山岳部、日大山岳部出身。北極圏グリーンランド遠征隊、日本山岳会エベレスト登山隊、日大エベレスト登山隊長、チュ・オユー熟年登山隊、日大メラ・ピーク登山隊など海外遠征多数。日本山岳協会元会長、日本山岳会元副会長、HAT－J 会長など役職歴も多数。

『倶楽部ライフを活き活きと安全に楽しもう！』　　新支部長　松田宏也

定年を機に住み慣れた東京を離れ佐倉市に転居したのは 2016 年 5 月のこと。古くからの登山仲間との距離も遠くなり、さてさて、これからどうしようかなと思い始めた時、新たな人生の始まりには新たな山仲間が必要だ！との結論に至り、千葉支部の山行に初参加したのが 12 月の房州アルプス。その後、入会してまだ間もない私が 1 年後には副支部長、そしてさらに 1 年後には支部長という大役を拝命することになりました。

まだ入会期間も短く支部活動については理解不足の私ですが、「山を愛する者の倶楽部」として、会員・会友が倶楽部ライフを活き活きと安全に楽しんでもらえるよう、また支部の実力向上のお役に立てるよう努力をしたいと考えます。

会員の高齢化、支部行事に参加する人達の固定化、リーダーと新入会員の不足という現実をすぐに変えていくのは困難なこととは思いますが、「過去は変えることができないが未来は変えられる」との信念で、新たな元号「令和」の時代のスタートを切りたいと思います。

春夏秋冬、愛する山々を仲間とともに汗を流し、また下界の各サテライトの会では、ざっくばらんなワイガヤを通じて、より会員・会友の結束を高めていきましょう！

皆さんのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

『仲間に支えられた４年間に感謝』　　前支部長　三木雄三

令和元年度の千葉支部通常総会をもち、支部長としての務めを終えることになりました。

２期４年、この間、支部に関わる皆さんを信頼し、ともに山歩きを通して風の音を聴き、山の水を飲み、星空に感動。時には公益活動で晴香園登山クラブの子どもたちから「ミッキー」と呼ばれ、手を繋いで低山を歩くことができたことは得難い幸せなことでした。支えてくれた仲間の皆さんに、心から感謝します。有難うございました。

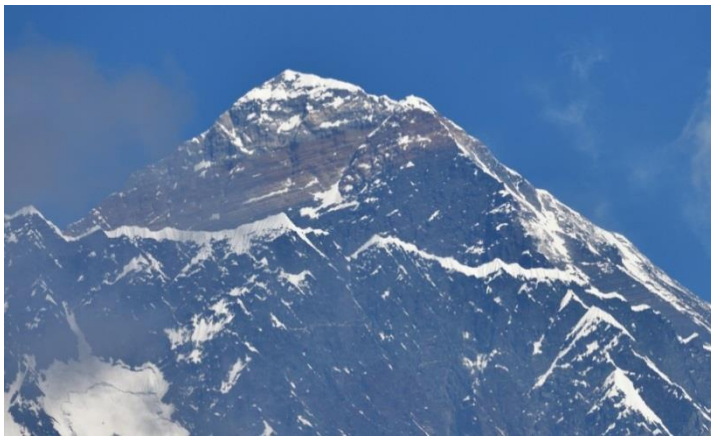
これからは一兵卒として、千葉支部のモットーである『誰もが参加できる楽しい支部活動』のためにお手伝いをさせていただこうと考えております。どうぞ、これからも宜しくお願いいたします。

さて、私たちの千葉支部もここ数年で「山を愛する仲間」がだいぶ増えてまいりました。おかげさまで支部山行も活発になり、さらに支部員たちの止まり木となるサテライト活動も賑やかになって、仲間の「横のつながり」も固く結ばれてきた感がいたします。良い事です。　高さへの挑戦も大変意義あることでしょうが、支部としては「仲間とともに登る」ことに軸足を置き、そうした活動の在り方を一緒に考え続けていきたいと思っています。

ネパール・ヒマラヤトレッキング

3 月 5 日(火)～15 日（金）

千葉支部初めてのネパール・ヒマラヤ・トレキングを 3 月 5 日～15 日にかけて実施した。
三木雄三支部長を団長とする一行 16 名は、カトマンズから国内便でルクラに飛び、ルクラから徒歩で拠点の村ナムチェバザールを目指す。3 月 10 日にナムチェバザールを起点としてあこがれのエベレストを始め、ローツェ、ヌブツェ、アマダブラムなど 7,000～8,000 メートル級の壮大なヒマラヤの山々を目の前にトレッキング。至福の時間と大きな感動を共有して 3 月 15 日全員無事に帰国した。



(行程)
3 月 5 日～6 日
　成田　⇒　カトマンズ
3 月 6～7 日
　カトマンズ　（入山準備等）
3 月 8 日～9 日
　カトマンズ⇒(国内便)
　ルクラ→(徒歩)　パクディン→
　ナムチェバザール
3 月 10 日
　ナムチェバザールを起点に
　エベレストトレッキング
3 月 11 日～12 日
　ナムチェバザール→　ルクラ
　⇒カトマンズ
3 月 13 日～14 日
　カトマンズ　(予備日、観光)
3 月 14 日～15 日
　カトマンズ　⇒成田

人生感が変わる経験　　団長　三木雄三

新聞社の論説委員当時、山好きの共同通信社の同僚記者から言われた言葉が「カトマンズは人生観まで変えてしまう町」だった。今、その言葉を思い出しながらパソコンのキーを叩いている。

車の排ガス、騒音、悪臭が混濁し、町を歩けば原色の看板。「マネー、マネー」とまとわりつく少女。まるで黒澤明映画『どですかでん』そのもの。そして、焚火と思ったのは川岸の火葬場。遺体を焼き、川に流し、下流では男たちが金めのものでも探すようにザルで川底をさらい、対岸では観光客が見物。その客に「千円、五百円…」と寄ってくる物売りの女性。我々の定規では計り知れない世界があった。

エベレスト街道では牛馬の輸送隊に出会う。指揮をする青年の精悍な顔。「ナマステ」。呼びかけると優しい顔が返ってきた。ナムチェバザールの朝に見たタムセルク。歩き出すとアマダブラム、ローツェ、ヌプツェの巨人を従えたエベレスト。これが「素朴な民」と「崇高なるヒマラヤ」なのだろうか。現地では日本山岳会員で「ヒマラヤのドン・キホーテ」の異名を持つ宮原巍さんにもお会いできた。

企画していただいた吉永英明さんに感謝申し上げます。

世界最高峰エベレストの待つ天空のテラス席へ

松田宏也

３月８日：カトマンズ(1,330m)→ルクラ(2,840m)→パクディン(2,610m)　晴のち曇り

５時間遅れでルクラ空港に無事到着しガイドのツエリン・テンジンと合流。パクディンに向け、いざトレッキングを開始。４時間でパクディンのナマステロッジに到着。

３月９日：パクディン(2,610m)→ナムチェ(3,440m)　曇り時々霧雨

今日は標高差830mのナムチェまでだ。チュモ、モンジョと過ぎ、ジョルサレで入域料を支払う。最後の吊り橋を渡りジグザグの急登を終えチェックポストを過ぎると、ナムチェの家々が見え始め白い立派な仏塔が現れた。3 階建てのプモリハウスも見えてきた。

３月１０日ナムチェ→博物館→エベレストビューホテル→クムジュン→ナムチェ　晴のち曇り霧雨

翌朝、ホテルの目の前には尖った鎧をまとったタムセルクがその雄姿を現した。

タムセルクを右手に仰ぎながら、尾根道をたどり博物館へ。ここは展望が良い。深い谷の奥にはエベレスト、ローツエ、アマダブラム、ヌプツエが見える。夢にまでみたであろうヒマラヤ 8000m 峰との対面にメンバーの表情は喜びに溢れ、今にも感情はバクハツだ～。博物館見学後はエベレストビューホテルの道へ。富士山の標高を越え、ビスターリ、ビスターリと登っていくと、神々の座がだんだんと近づいてきた。

ヘリコプターがホバリングしているポートを過ぎ、大きな建物に入ると、そこがエベレストビューホテルであった。エベレスト山群とアマダブラムを独り占めできそうなテラス席では、チャイの甘さと重なり合って、なんとも言えぬ至福の心地

良さ。ここに来てよかった。本当によかった。ただただ、このままこの大風景をいつまでも眺めていたい。欲を言えばもっと奥まで歩いてエベレストの表情をまじかに見てみたい。

後ろ髪を引かれる想いで、世界一のテラス席をあとにしクムジュンへと下った。天候は晴れから曇り、霧雨へと刻々と変わるなか雪道混じりの峠を通過、ナムチェへと一気に下った。

３月１１日　ナムチェ→パクディン→ルクラ　晴のち曇り

行きに２日かけて登ってきた道を今日は１日で下りなければならない。途中のトイレ休憩所では行きに見えなかったエベレストが顔を出してくれた。さらば、さらばよ～、エベレストである。パクディンからはウサギさん、ビスターリのカメさんチームに分かれルクラを目指す。カメさんチームも薄暗くなった頃ルクラのアルパインロッジに無事到着。薪ストーブの温もりに包まれながら全員で美酒を味わい今回のトレッキングが終了した。

一言コメント

初めてのソルクンブー　　大澤雅彦

ネパールへは 1971 年以来数え切れないほど出かけていますが、ソルクンブー地方には入ったことがありません。その未知の世界を目指して参加しました。エベレスト街道沿いにあるジュンベシは千葉大学隊ゆかりのベースで、沼田眞先生、依田恭二さんはじめ生態学者も沢山入っています。私は 1971 年隣のアルン谷からバルン・コーラ沿いにマカルーベースに入ったのでちょうど今回と反対の東側からエベレストを望見しました。

喧騒と混沌のカトマンズから展望のエベレストビューホテルへ　　山口　文嗣

センターラインを越えて突進してくるバイクの群れ。その流れの中を所かまわず車道を渡る人の波。街中の寺院の川岸で遺体を焼く煙。混沌と喧騒のカトマンズから飛行機でわずか１時間。ルクラに着くと、そこはラバや牛の乾燥した糞と土埃の舞うエベレスト街道。ラバ、牛の隊列と共にドゥード・コシの長い吊り橋を渡り、3 日目にシャンボチェの丘に上がるとローツエとヌプツエの間から待望のエベレストが頭を出していて大感激。

大パノラマにただただ感激　　平出正美

国内の登山経験もほとんどない私は何も知識もなくただ海外の山行でしかもエベレストの国に行けると単純に興奮して申し込みし夢を膨らまし参加させてもらいました。

首都カトマンズの車、オートバイの喧騒とトレッキングロードの牛馬の糞尿の埃と匂いには閉口しましたがスケールの大きなパノラマに疲れも忘れただただ感激しました。

又、植物園で見た大きな着生デンドロも印象に残りました。すべてがカルチャーショックの旅でした。

諦めていたエベレストの撮影　　山本哲夫

吉永さんの企画に参加した。カトマンズに近づくとエベレストとローツェ、マカルーが聳え立っていた。

3 月 10 日　チャンボチエの丘で念願のエベレスト。エベレストビューホテルに向かう路でもエベレスト南壁の岩肌模様を捉え贅沢にシャッターを押した（4 ページ標題下の写真）

3 月 11 日　ルクラに下る。エベレストビューポイントで望遠レンズにて撮影。少し下って踏み跡を発見、最後のエベレストが撮れた

カトマンズは「混沌」の世界　　小川和敏

ネパール？ヒマラヤ？…面白そう！！！
首都・カトマンズはまさしく「混沌」の世界。道路、電柱、お店…そして人々の様子などすべてが。
町中や寺院にあふれる色彩に圧倒される。
スリルあふれるルクラ空港から向かったナムチェは、また違った印象。

周辺に６千m級の山々が見事にそびえ、家々が緑や青のカラーコードを守っているかのよう。
ビューホテルに向かう時に、飛び込んできたエベレストの眺めが最高のものだったかも！

温かいおもてなし　　高橋琢子

目もくらむようなつり橋を何度も越え、霧で暗くなった頃 3400m の山肌におとぎの国のように張り付いているような村、ナムチェバザールに着いた。その中腹に「プモリゲストハウス」はあった。簡素だが綺麗な洋室、薪ストーブがある食堂、美味しい食事とガイドのツェリン夫妻の温かいおもてなし、16 人で一つのトイレ事情、シェルパトイレ村をバックに見る朝日に輝くタムセルク。一生涯忘れない。

シャンボチェ空港の思いで　　渡邉信一

1991 年に縁あってエベレストﾋﾞｭｰホテルに泊まる機会がありました。ホテルを造った宮原巍さんはﾋﾞｭｰホテルの為にシャンボチェの丘（3720m）に空港も造りました。その空港へ行くためにカトマンズから数人乗り航空機ピラタスで向かいました。ここから 2 時間程歩いて、ﾋﾞｭｰホテルに泊まりました。翌日はｸﾑｼﾞｭﾝに下ってシャンボチェ空港に降りてカトマンズに戻りました。「ルクラ空港」と「シャンボチェ空港」の違いは滑走路が砂利道からコンクリートに替わっただけですが恐怖感は全く同じでした。今回のｴﾍﾞﾚｽﾄ街道ﾄﾚｷﾝｸﾞはルクラからシャンボチェを経てのﾋﾞｭｰホテル迄は私にとって長くて遠い旅だった。

日本と違う文化・生活に驚きの連続　　宮崎美智代

今回のトレッキングは世界の屋根ヒマラヤを自分の目で見たいと思って参加した。実際のヒマラヤは白と黒と青の世界で荘厳という言葉が似合う美しい山々だった。トレッキング中は景色や草花に春を感じ、途中出会ったシェルパ族の母達の民族衣装「スカートにエプロン姿」、ポーターの軽装で軽快な足下、カトマンズでは車とバイクの大渋滞、何事にも動じず寝入る犬など、日本と違う文化・生活に驚きの連続だった。

エベレストへの道は険しく　　吉田　望

絶景を求めてネパール旅行へ全員集合！！
男性たちは、集合時間の 1 時間も前から、すでにほろ酔い状態になっていますよ。

成田出国審査場では、団長は顔認証システムで怪しい人と検知されストップ。さらに、カトマンズ空港に到着後、預けたストックが 1 本出てこない。これがネパール時間かと思いきや、どうやら乗換地のクアラルンプールに積み残されていたようで、翌日の便でカトマンズ送るという。

エベレストへの道は険しく、こんなトラブルから始まりました。

遠くに、でもハッキリとエベレストを　三品京子

千葉支部にお世話になって 1 年半、一生この目で見ることなど無いと思っていたエベレスト、このチャンスを逃してはいけないとヒマラヤトレッキングに参加した。

日本を出国して 6 日目、遠くに、でもハッキリと見えたエベレスト、まだまだ先に見えるが私にはとても近くに感じた。山は山頂に立つものだと思って山を登っていたが眺めているだけで満足している自分がいた。仲間に入れてくれた 15 名に感謝です。

エベレスト遠征隊と同じ道　　三田博

実際は埃と糞だらけだったけれど、エヴェレスト遠征隊が歩いた同じ道を私も歩いたんだよなあ。スリル満点のルクラへの飛行、タルチョはためく谷間の吊橋やナムチェの家並み、ビューホテルから見たエヴェレスト。素朴で人なつこいシェルパ族の人々。

何もかも夢の中の出来事のような。青空に白い山々が映えて神々しいまでに美しかった。心底から「行って良かった」と思える山旅でした。

世界一危険な空港　　吉野聰

エベレストの玄関口となるルクラへは国内便で行く。空港は山と谷に囲まれた 2840 メートルの高地、滑走路は深い谷の上に造られている。

18 人乗りのプロペラ機が、斜面に突入するかのように着陸、短い滑走路を右に旋回して急停止。離陸時は、下り斜面を滑り落ちるように谷に向かって飛び出していく。世界一危険な空港と言われているそうだ。

とにかく無事に帰れてよかった。カトマンズの空港に着陸したとき、機内では一斉に安堵の歓声と拍手が起った。

ホテル・エベレスト・ビュー

ゆっくりとコーヒーを満喫　　山田紀夫

日本を出発して 6 日目、幸運にもその日は、晴れわたった紺碧色の空だった。

ナムチェの村からシャンボチェの急斜面を登り「ホテル・エベレストビュー」に着いた。そして私は、ホテルのテラスの椅子に腰掛けながら世界一の山、エベレスト、そしてローツエやヌプツエなどのヒマラヤの美しい山々を見ながら、ゆっくりと一杯のコーヒーを満喫した。その大きな感動を含んだ至福の時間は、一生忘れられない味となった。

マネージャーとして　　吉永英明

一杯 80 ルピー以上のティーはダメなどという節約づくめで少々不満があったかと思いますが、ルクラへの曲芸飛行並みのフライトで始まった千葉支部初めてのヒマラヤ・トレッキング。幸い好天に恵まれ、企画立案者としてほっとすると同時に、ネパールの友人たちの“おもてなし”にも大いに感謝しています。

次は、エベレスト街道を北の方に 3 日程はずれ、4,300 メートルぐらいを目指す旅とか、西の方のポカラからアンナプルナを望むルートを検討しています。

それにしてもナムチェからルクラへの一日行程は、いつ歩いてもキツイね。

湘 南 ア ル プ ス 花 見 山 行

3 月 30 日(土)　　梶田義弘

こよろぎの　磯立ちならし　いそ菜摘む
**　童女（めざし）濡らすな　沖に居（お）れ浪（なみ）**
（古今集・詠み人知らず）

いにしえから多くの歌人たちが歌に詠んだ風光明媚の地、神奈川県大磯町。桜舞い散る春爛漫の中、湘南ｱﾙﾌﾟｽ山行と称して日本山岳会千葉支部の花見を挙行した。

午前 9 時半、JR 大磯駅に 11 人が集合。最高齢 87 歳の塩沢先輩も久しぶりに元気な姿を見せた。旧東海道の住宅地をぶらぶらと 30 分ほど歩いて、高来神社に到着。これから登る高麗山(標高 167.3 メートル)が鳥居越しに見える。お社にお参りをして、境内奥の石段から登山道に入る。いきなり道が分かれ、左へ行くと急坂の男坂、右へ行くと傾斜の緩やかな女坂。我々はゆっくりと女坂を目指す。わずか 30 分ほどで高麗山頂上。ここからは尾根道をゆるゆると進み、あっという間に八俵山(標高 160 メートル)、そして一等三角点のある浅間山(標高 181.3 メートル)、さらに緩やかな傾斜地を進むと突然視界が開け、目的地の湘南平に着いた。

駅を出発してわずか 2 時間程度。今回は登山というよりﾊｲｷﾝｸﾞですね。登山道はよく整備されていて歩きやすく、春らしい赤や黄色、白、紫の花が競うように咲いて、目を楽しませてくれた。このあたりは仇討ちで有名な蘇我兄弟と虎御前の伝説も多く残されており、道の途中には「曽我十郎の硯水」と呼ばれる池などもあった。

さて、湘南平は大磯町と平塚市にまたがる標高 181 メートルの広い平らな丘陵で、「千畳敷」の別名も。売店やレストランの入った展望台、小型の東京ﾀﾜｰのような展望塔があり、湘南の海や江ノ島などが 360°のパノラマで見渡せる。桜はまさに満開で、大勢の人たちが花見を楽しんでいた。我々も日当たりのよい場所にシートを敷き、早速花見の準備。それぞれが持ち寄った肉や野菜を大きな鍋に入れ、ガスバーナーで煮込む。大きな体をかがめてごつい手で野菜を切り刻む三田さんの〝母性〟に胸がきゅんきゅんする。鍋がぐつぐつと煮立ち始めた頃には、皆、お酒が回っていい心持ちに。湯下さん持参の「A5 ランクの牛肉」やホタテ、白菜、大根、ニンジンなどが入った具だくさんの鍋は最高だった。実は、山の上で調理して食べるという経験はこれが初めて。本当においしかったです。

湘南平には日本山岳会初代会長、小島烏水とともに山岳会設立に尽力した先駆者、岡野金治郎氏の立派な石碑があり、その前で記念撮影。下山は約 1 時間のコースだったが、リーダー松田さんの提案で、頂上から出ているバスに乗り、20 分で平塚駅に到着。「山岳会なら歩け」と怒られそうだが、お酒も入っているし、中高年だし、「たまにはこんな山行もいいな」と思う楽しい一日だった。

参加者　　松田宏也(L)、三木雄三、三田博、三品京子、吉永英明、山崎完治、湯下正子
平出正美、塩澤厚、塩塚生二、梶田義弘（記）

裏鋸山山行報告[劔・劔・劔岳・ゆめの劔岳へ第一歩]

4 月 13 日（土）　　川島辰雄

登山は 40 歳を過ぎた頃より、自己流かつ単独で百名山を中心に登ってきた。
立山三山に登った時別山から見た「剣岳」その威容・迫力に魅せられてぜひ登りたいとずっと思っていた。山小屋で同宿の登山者に「劔登りたい」と話すと、劔は日本百名山の中で一番技術を要するとのこと、三点確保（この言葉初めて聞いた）・岩登りを経験してからとアドバイスを受けた。以来八ヶ岳へ登った時も、槍ヶ岳へ登った時もいつかは劔岳と恋焦がれてきた。

今回「千葉支部だより」を見て、8 月に劔岳の山行計画を知った。早速「房総の岩場（裏鋸）岩登登山技術向上（初級岩登り教室①）」へ参加したく山本さんへ連絡すると、「ハーネス・ヘルメット・スリング・カラビナ」の用意と「八の字結び」を練習しておくように」とのこと。急ぎヘルメットを購入した。

当日は天気よし、参加者 8 名が浜金谷駅に定時集合、軽く準備運動して 9 時 22 分より登山ｽﾀｰﾄ。しばらく車力道登山道を歩いていると、左側に「この先コース外きけん」の標識が、私たちは全員がヘルメットを着用し進んだ。登山道ははっきりせず、滑りやすく軟弱で石と根がからみあい、アップダウンもきつく結構緊張して登った。今までの登山で一番の悪路で危険度も高く、山行にある難度「C」を実感した。手彫りﾄﾝﾈﾙ・崖難所を通過して鋸山山頂（一等三角点）へ、ここで小休止し「小鋸山」を目指した。正午到着、ここで昼食とのこと、これまで緊張してわき目も触れず登ってきたため、360 度の展望にﾎｯﾄしながら「おにぎり」をパクついた。その時山と山の間に真っ白な富士山を発見、富士山は絵になるし心が和む、少し気持ちに余裕ができた。

30 分ほどの休憩後、白狐峠へ、ここで三田さんより岩登りに必要な登山用具の取扱い説明を受けた。ロープを使っての八の字結びも手取り足取り教えてもらった。次に岩登りの練習、岩場は勾配が急で 10m 弱あり、これはちょっと無理・危険すぎると思ったが、三田さんの指導と・三田さんを 100%信頼して、全員が登り降りの岩登り体験が出来た。16 時前保田駅へ全員無事下山、木更津に移動し「岩登り初級」の反省会を開き楽しい一日を終えた。

行動時間　千葉駅発 7 時 45 分、浜金谷着 9 時 09 分、9 時 22 分出発、鋸山山頂 10 時 40 分、林道 11 時 25 分、小鋸山 12 時 2 分、練習 12 時 50 分-14 時 45 分、保田駅 15 時 50 分着、16 時 19 分特急、木更津駅下車

参加者　ＣＬ山本哲夫、ＳＬ三田博、山田紀夫、小川和敏、三品京子、宮崎美智代、竹内進、川島辰雄

東京湾から印旛沼まで　三回目

4 月 14 日（日）　　吉田　望

今回は最終回、道の駅やちよからのスタートです。

京成勝田台駅に集合して、道の駅やちよまでバスで移動する。そこから新川のサイクリングロードを佐倉ふるさと広場までウオーキングしていく行程である。

このあたりは、見渡す限り低地でところどころにこんもりとした林が見える。新川は豊かに水をたたえ水郷の雰囲気を漂わせている。聞くところによると、江戸時代より臼井城址付近から眺めた 8 つの景観を、臼井八景として称えていたそうで、サイクリングロード沿いに３つの碑を発見。「舟戸夜雨」「遠部落雁」「瀬戸秋月」川辺に立つとその情景が目に浮かぶようである。臼井について、ちょっと知見が深まりました。

さらに、新川沿いに桜の花を愛でながら進んでいくと、遠くにオランダ風車が見えてきた。そこはもうゴールの佐倉ふるさと広場。沢山のチューリップがカラフルに咲き誇っている。ここでチューリップに囲まれてランチです。ちょうどチューリップ祭りが開催中で、多くの家族連れでにぎわっていた。

解散場所の臼井駅に向かって歩いていくと、金メダルジョギングロードの裕子コースや尚美コースの標識を見つけた。ここ佐倉はマラソンの聖地でもあるのですね。

寒風が吹いていた海浜病院前をスタートして、ゴールの佐倉ふるさと広場まで約 45 キロの行程は、足跡が線になるくらいの距離である。3 回に分けると、長距離を歩いた気がしません。今は春爛漫、冬から春へまったりとした時間が流れていきました。杉本さん、季節の花を追いかけて歩く素敵なコースを企画して下さりありがとうございました。

ただ、思い残すことが一つ。道の駅やちよの、焼き芋を食べられなかったこと。2 回目の時に、ここで買った焼き芋の美味しさが忘れられず、お昼は焼き芋にしようと、朝から頭の中は焼き芋でいっぱい。そして、買い物客で大混雑している中を、売り場に向かってダッシュしたのに、作成中で get できず･･･皆勤賞は焼き芋を楽しみにしていますね。ぜひ！！

≪参加者 13 名≫杉本正夫（L）、新井好夫、大浦陽子、岡部紘、鎌谷繁、黒田正雄、香高真奈美、小林義亮、塩塚生二、高橋琢子、津田麗子、三木雄三、吉田望

「三浦の富士を越えてツツジの武山を目指す」

4 月 20 日(土)　高畑幸恵

絶好の行楽日和となった 4 月 20 日。9:30 に京急長沢駅に初参加 2 名を含む計 6 名が集合し、準備体操後に出発しました。駅から登山口までは数分で到着。青空の中、登り始めて 5 分程でもう海が見え、向こう岸には房総の山々がすぐそばに。“あれは鋸山、伊予ヶ岳、大島の三原山”などと教えてもらい、三浦半島からはこんなにも房総が近くに見えるんだとびっくり。

さらに進んでいくと、根元から何本にも枝分かれした立派な姥女樫があちらこちらにあり、見事な枝ぶりにも驚きました。照葉樹の濃いまぶしい緑、新緑のやさしい色の間を歩いて 10:25 三浦富士(183m)の頂上に到着。

15 分程休憩してから次の砲台山へ。砲台山には大きな砲台跡があり、近くには戦時中のものと思われる遺物や水場らしきものがまだ残っています。砲台山から武山へは尾根づたいに歩き 11.30 に到着。ここはつつじがきれいとのことでしたが、残念ながらまだつぼみの状態で満開にはあともう少し。展望台からは房総の山々やアクアラインも見え、「房総はいいな～」という声も！昼食は展望台下にあるきれいな休憩所でつつじを見ながらのんびりと。山中ゴミを拾っていたのは千葉支部の山美化活動と聞き、素敵な活動だと思いました。

五色幕が鮮やかな武山不動を参拝してから下山開始。それほど登った感がないのにもかかわらず、下りは階段続きで、12:45 に下山。さらに下りの一般道が続き、川沿いの道を通って、13:20 に津久井浜駅に無事到着。その後は久里浜駅に移動し、リーダーおすすめの中華料理屋で反省会をしました。久里浜から千葉まで電車 1 本。2 時間弱の電車の中ではみんな寝て帰りました。

今回、有賀さんと私は千葉支部未入会で参加させていただきました。参加前はどんな感じになるかとちょっとどきどきでしたが、みなさんから優しく接していただき楽しく山行を終えることができました。ありがとうございました。

CL 松田　宏也、SL 三田　博、杉本　正夫、吉永　英明、高畑　幸恵、有賀　七海

佐　渡　の　山　と　旅

4 月 26 日(金)～4 月 29 日（月）　　羽藤美代子

アオネバからドンデン山荘そして金北山、白雲台へとの予定。私は初めての佐渡島。新幹線組は前日から佐渡入りした 4 人と両津港で合流。タクシーで登山口へ。案内板に、「アオネバ峠まで５㎞、梅津川上流沿いを 2 時間、峠から 30 分でドンデン山荘、尾根周辺の青い粘土がアオネバの由来」と。

あいにくの雨で午後１時20分カッパを着て登り始めると早くもニリンソウの群生、枯葉の間からヒトリシズカ、オオイワカガミ、エンレイソウなど次から次と。沢の流れの音も心地いい。雨も忘れて花々に目を奪われる。淡い紅紫のシラネアオイもそしてカタクリの花は登山道一面に峠まで群生していて雨で花は閉じていたが、その姿がとても美しい。芽吹き始めた新緑の木々の向こうに山桜も。20 数種の花々が咲く登山道はチャート（動物の殻や骨片が海底に堆積し隆起）だそうだ。沢を何度か渡りアオネバ十字路に着くまで花々が咲き乱れていた。十字路からは４月に降った雪で残雪が多く、踏み抜かないように赤いテープをたよりに歩く。車道に出ると雪解けの所から沢山のふきのとうが。午後４時40分ドンデン山荘に着いた。

翌朝 7 時半に山荘を出発する時にはみぞれ。残雪も少しずつ多くなる。9 時 20 分 937mマトネ着。今回はここを頂上として昨日登って来たアオネバを下山する事に。下山中みぞれや雪が降っていて沢の水量も昨日より多い。

12 時登山口着。2 泊お世話になる節田さんのお宅に向かった。築 100 年を越すと言う趣のあるお宅に昔なつかしさが。節田さんが佐渡の花々を皆に説明してくれた。加茂湖を眼下に露天風呂で温まり、寿司屋で胃に染み渡る美味しい佐渡のお酒と絶品の料理に皆感激。翌朝近くの神社の杉林に響くウグイスの鳴き声で目覚めた。快晴だ。その杉林から朱鷺色の大きな羽を広げて飛び立つ朱鷺の姿は圧巻だった。

車で、佐渡金山、宿根木、懐かしい里山風景が広がり、大膳神社でのんびりとお昼。翌日朱鷺の森公園、根本寺と。節田さんの暖かいおもてなしで思い出に残る山旅が出来た事に感謝致します。帰りの船から見える金北山が雪に輝いていた。

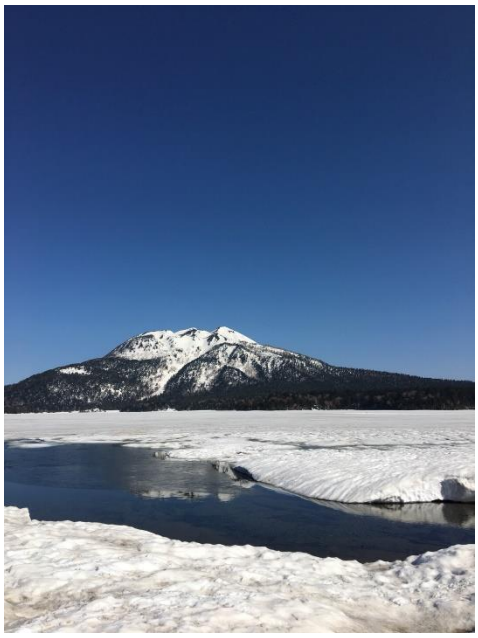
参加者　Ｌ松田宏也　節田重節　吉永英明　平出正美　山崎完治　ＳＬ小川和敏
湯下正子　柳川しげよ　羽藤美代子

残　雪　の　燧　ケ　岳　山　行

5 月 3 日（金）～5 日（日）　　宮崎美智代

5 月 3 日、千葉駅 6:30 集合。松田さんの車で 4 名、尾瀬へと出発。10 連休と好天が重なり渋滞が心配されたが、順調に戸倉に到着。バスで鳩待峠に移動し 13 時に登山開始。雪が多いとの情報通り、多くの登山者がアイゼンを使用していた。しかし今日の雪の状態ではアイゼンは必要ないとのリーダーの判断でアイゼンは付けず、歩行時の注意を受け歩き始めた。残雪の下は空洞になっている事があり足を踏み抜かないように気をつけた。雪の尾瀬ヶ原、登山者は少なく広く、静かで、前方には燧ヶ岳、後方からは至仏山の仏に見守られ 16 時、弥四郎小屋へと到着。お風呂にも入り大満足の私達はいつもより少し？お酒が進んだ。

4 日、晴れ 7:30 燧ケ岳に出発。今日もアイゼンなしで見晴新道の美しいブナ林を歩き始めた。登山道が急勾配になるにつれキックステップやトラバースは滑落しないようアドバイスを受け、一歩一歩気の抜けないコースを進み 12:20 山頂へ。山頂は風もなく天気も良く 360 度の大展望。昨日歩いた尾瀬ヶ原、これから向う尾瀬沼が眼下に広がっており、昼食の最高のご馳走となった。ホッとしたのも束の間、下山は安全の為アイゼンとピッケルを使用。準備して下山先を見ると目の眩むような高さと急勾配に恐怖感が出た。怖かったら後向きで降りるようにとのアドバイスにくるりと向きを変えた途端、恐怖感が消えピッケルを深くしっかりと差込みながら一歩ずつ下山した。やや勾配が緩んだ頃雪山をアイゼンなしで降りる技術も教わり、幾度か雪に膝まで埋まりながら習得していった。この日は 16:35 長蔵小屋到着。夕飯は尾瀬沼に沈む夕日を見ながらの贅沢なものとなった。



5 日、晴れ 7:40 出発。朝日を浴びた美しい燧ヶ岳を惜しみつつ三平峠を越え大清水、そして戸倉、これで尾瀬を一周。今回の尾瀬山行は今までになく得る技術や情報が詰まり、翌日全身の筋肉痛が物語っていた。皆様ありがとうございました。

参加者　松田宏也（L）、三田博、宮崎美智代、三品京子

こんにちは

山 岳 会 へ の 思 い　　小川和敏

３年前の鳥海山へのソロ山行が始まりでした。
ガスが強く登山口で行くかどうか迷っていたところに、お二人の方が現れ躊躇することもなくスタート。
半分撤退を考えていた自分も釣られるように・・・途中で合流しナビを使ってガスの大雪渓をクリア。
抜けたところからは晴れ間も見え、無事登頂し、結果 12 時間の日帰り山行でした。聞けば、日本山岳会千葉支部の方たちで。写真のやり取りなどのあと山岳会入会をすすめられ、まずは会友に。その後、昨年サンデー毎日の身になったことを機に会員になりました。基本的には、北海道、屋久島ほかソロで山を楽しんでいます。登りは写真を撮りながらゆっくりと、下りは得意なので早めで、トータルするとコースタイムに近い感じです。しかしながら、グループ山行もそれなりの楽しさが有り、越後駒ヶ岳・小屋泊山行や西表島・探検山行など印象的なものでした。
　何よりも今年の３月に訪れたネパールのトレッキングは格別なものでした。
首都カトマンドゥの「混沌」とした様子と、そ

して、標高およそ 4,000mから眺めたヒマラヤの山々の神々しい雄姿！決してソロでは行かれなかったものでしょうし、参加した皆さんとの 10 日間は人生の宝石になってくれました。
　これから先もソロ山行を基本に、グループ山行を織り交ぜつつ、自然を満喫していきたいと強く思っています。当然、地元千葉県の山々も。
　山岳会への思いとしては、若い世代の多くの参加が増えることを願っています。
　全く堅苦しいことはなく、人生の先輩から山のことだけでなく、幅広い世界について学ぶこともできるかと。何か魅力的なところをつくり上げていくことが、我々高齢会員の一つの責務かと考えています。

山　行　計　画（7 月以降）　支部行事含む

7 月以降の山行計画を掲載します。参加希望の方はリーダーに申し込みください。2020 年 1 月以降の計画は山行委員会で検討中です。
なお参加に当って、18 ページの“ご注意”20 ページの“山行の心得”をご確認ください。

（支部山行）

	山　系　名	難度	備　　考	リーダー	締切
8.2(金) ～6(火)	剱岳と周辺	D	岩と雪の殿堂 初級岩登り教室①②参加が条件	山本哲夫	7.22(月)
8.6（火） ～7（水）	内浦山キャンプ	W	晴香園　（公益事業）先着 4 人	三木雄三	7.22(月)
8.10（土）	高尾・小下沢	B	暑いのでウオーターウオーキング 沢靴又は濡れてもいい靴で、 要ヘルメット	三田　博	8.3（土）
8.11(日)	ビールパーテイ		詳細 20 頁参照	香高 真奈美	7.31（水）
9.5(木) ～9(月)	南ア・聖岳～光岳	D	南アの深部、3 度目の正直 条件　山行計画提出順守者	山本哲夫	8.23（金）
9.14(土) ～16(月)	中央ア 木曽駒岳～空木岳	C	ロープウェイ利用で千畳敷からスタート　　山小屋 2 泊	山口文嗣	8.9（金）
9.21（土）	鵜原理想郷	W	晴香園　（公益事業）先着 4 人	三木雄三	9.10（火）
9.29（日） ～30(月)	平ヶ岳	C	中ノ岐林道終点よりピストン 定員 10 名	山口文嗣	9.19（木）
10.3（木） ～5(土)	裏岩手・三ツ石・八幡平	C	松川温泉から裏岩手縦走。避難小屋泊、定員 5 名、盛岡駅集合	三田　博	9.18（木）
10.19(土)	富士山五合目「お中道」	A	晴香園　（公益事業）先着 4 人	三木雄三	10.12 （土）
10.26(土)	深大寺周辺巡検	W	公益事業自然観察会 深大寺そばと武蔵野台地を探る	三木雄三	10.20 （日）
11.3(日) ～4(月)	雲取山	C	三条の湯に宿泊。鴨沢に下山	三田　博	10.7（日）
11.9(土)	奥秩父・雁ヶ腹摺山	B	500 円札富士山撮影地	松田宏也	10.27 （日）
11.23(土)	三石山、元清澄山	B	三石山から元清澄山ピストン	三田　博	11.9（土）

11.30(土)	筑波山	B	初冬を楽しむ	松田宏也	11.16（土）
12.7(土)	年次晩餐会		別途連絡		
12.8(日)	館山「野鳥の森」	W	茂原子どもセンター（公益事業）先着４人	三木雄三	11.30（土）
12.21(土)～22（日）	房総・高宕山	A	忘年山行、集中山行方式で	三田　博	11.30（土）
1.12(日)	和田浦「花嫁街道」	A	晴香園　（公益事業）先着４人	三木雄三	1/3（金）

（ビスターリ倶楽部、同好会の計画）

7.20(土)～24(水)	北ア　針ノ木～鹿島槍 ***B***	C	針ノ木大雪渓から蓮華岳、鹿島槍へ民宿１泊、山小屋３泊	松田宏也	7.1(月)
8.1(木)~3(土)	篭ノ登山、水ノ塔、湯の丸、 ***B***	B	のんびりと夏山を　２泊（1 泊参加可）日大 WV 山小屋泊）	松田宏也	7.16(火)
8.22(木)～24(土)	鳳凰三山 ***B***	C	南ア　前衛峰　２泊	松田宏也	7.31(水)
9.1(日)～3(火)	霧ヶ峰と北八ヶ岳 ***B***	B	ゆったりと初秋を感じる　２泊３日	松田宏也	8.11(日)
9.29（日）	印旛沼から利根川 **W**	W	印旛日本医大駅～北印旛沼～下総松崎駅　入浴施設有	杉本正夫	9.20（金）
10.19(月)	印旛沼から利根川 **W**	W	安食駅～利根川～房総風土記の丘～下総松崎駅	杉本正夫	10.11（金）
10.27(日)～28(月)」	皇海山+α ***B***	C	民宿泊　１泊	松田宏也	9.30(月)
11.2(土)～3(日)	八ヶ岳青年小屋 ***B***	B	遠い飲み屋の小屋締め	松田宏也	10.15(火)
11.30(土)	市川のイチョウとモミジ **W**	W	市川大野駅～万葉植物園～市川動植物園～大町駅又はくぬぎ山駅	杉本正夫	11.22（金）
12.14(土)～15(日)	八ヶ岳（北横岳） ***B***	D	冬山初心者	松田宏也	11.20(水)
12　下旬	シーズン初スキー ***B***		群馬もしくは長野方面	松田宏也	11.30(土)予定

（***B***　ビスターリ倶楽部　　**W**　ウオーキングクラブ）

（ご注意）

リ ー ダ ー 連 絡 先	
杉本正夫	
松田宏也	
三木雄三	
三田　博	
山口文嗣	
山本哲夫	

難易度

W ウォーキング

A　整備され歩行２～３時間

B　歩行５時間前後

C　歩行７時間前後、一部岩あり体力要

D　強い体力、岩技術要

E　高い適応能力要、危険度大

（難易度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。）

※リーダーが記載漏れのない計画書を作成する必要から参加申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。

氏名、生年月日、年齢、住所、自宅電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号

山行によっては定員を設けている場合があります。その時は先着順になりますので早めに申し込みして下さい。技術・体力不足、初参加で力量が不明の場合はお断りすることがあります。

奥 日 光 で 全 国 支 部 懇 談 会

5月25日（土）26日（日）　　三田　博

第35回全国支部懇談会が5月25,26日に栃木支部主催で奥日光･光徳温泉の日光アストリアホテルで開かれ、全国から会員約 160 名が参加した。25 日は中禅寺湖畔の日光自然博物館で、栃木県庁元職員で自然環境行政に携わっていた飯野達央さんによる「アーネスト・サトウ親子の日光への山旅」と題した講演があった。

アーネスト・サトウが、中禅寺湖畔の風景をどれだけ愛し、山荘を建設したのか、またどのような生活をしたのか､こと細かく調べた事柄を話した。日本の自然風景を西洋人はどう捉えたのか、など興味深い話だった。

宿泊したホテルでは､硫黄のつよい温泉に入浴してさっぱりした｡懇親会では全国の支部がそれぞれ持ち寄った地酒が並び、さながら「利き酒」

大会のよう。各支部の仲間たちと 2 次会まで大いに盛り上がった。

翌日は、私と松田さんは社山登山、青木さんは半月山へ、その他の皆さんは切込・刈込湖ハイキングに参加した｡なお来年は宮崎支部での開催が予定されている。

参加者：三木雄三、松田宏也、青木次郎、節田重節、石岡慎介、羽藤美代子、高橋琢子、神山良雄、三田博

役　員　会　の　報　告

3月報告　　3月19日（火）　市川アイリンク

出席者　上村、髙橋（正）、廿楽、松田、三木、三品、三田、山口、山本、湯下、吉野　11名

1.4支部懇談会　2/16・17　47名参加(内千葉支部22名)　　来年茨城支部

2.山行報告（三浦アルプス2/23、高宕山（中止)、ネパールトレッキング3/5～15)

3.山行予定（湘南アルプス3/30、裏鋸4/13、印旛沼4/14)

ビスターリ（蝶が岳4/22.23、佐渡の山4/26～29)

4.小疇先生祝賀会　4.26明治大学紫紺館13人参加、千葉支部も独自に開催予定

4月報告　　4月16日（火）　市川アイリンク

出席者　廿楽、松田、三田、三品、山田、山本、吉野　7名

1. 山行報告（湘南アルプス、栃木支部虹芝寮4/6.7、裏鋸、印旛沼）
2. 山行予定（三浦富士・武山4/20、高川山4/29、尾瀬5/3～5、三つ峠6/14・15)

ビスターリ、個人（手賀沼4/21、佐渡の山、袈婆丸山5/10.11、
編笠山5/18.19)

3.支部総会　5/12千葉市文化センター　　記念講演　神崎忠男さん

総会終了後、小疇先生のお祝いの会

4.2019年度組織体制、新役員候補の検討

5月報告　　5月21日（火）　市川アイリンク

出席者　上村、小川、杉本、松田、三木、三品、三田、山口、山田、山本、吉野　11名

1. 千葉支部執行体制の承認
2. 新旧支部長挨拶　　松田新支部長、三木前支部長
3. 総会参加者　　会員32、会友5　計37名　　お祝いの会　37名参加
4. 山行報告（高川山、尾瀬）

個人・ビスターリ（手賀沼、佐渡の山、なお袈婆丸山、編笠山は中止）

5.山行予定（全国支部懇5/25.26、三つ峠6/14.15、初級沢歩き6/29.30、平標.仙ノ倉7/7.8)

個人・ビスターリ（甲武信ヶ岳6/2.3、岩手の山6/16～19、自然観察会（鵜原）6/9、
紫陽花ウオーク（多古）6/22、蔵王・月山7/11～13)

6. 遭難対策積立金制度の新設　　7月1日以降の山行に一人200円徴収して積立
7. 千葉支部内にウオーキングクラブを設立　　代表　杉本正夫会員

編集後記

令和という時代が始まりました。令和とは人々が美しい心を寄せ合うゆえ、文化が生まれ育つという意味が込められているとのことです。

千葉支部も新しい支部長が誕生しました。松田新支部長を中心に会員・会友が心を寄せ合い山岳会の理念に沿った登山の普及・発展に努め、有意義な支部活動を展開してまいりましょう。　（S．Y）

お　知　ら　せ

●会員の動向

≪退　会≫

【会員】NK さん　、MG さん、RT さん、JA さん

【会友】HS さん、MK さん

●会員の現況：会員 91 名、準会員 2 名、会友 42 名　（令和元年 7 月 1 日時点）

《お願い》　連絡先の住所・電話・アドレスなどが変わった場合は下記までご連絡ください。

事務局長・三田博

●ビールパーティーは 8 月 11 日（土）

恒例のビールパーテーは 8 月 11 日の「山の日」に実施いたします。奮ってご参加ください。

日　時　　8 月 11 日（土）　12 時 30 分から 15 時

場　所　　バル　デエスパーニャグランビア船橋駅前店　　℡050-5286-2845

ＪＲ船橋駅、京成船橋駅いずれも小さい方の改札口から徒歩 1 分

参加費　　4,000 円

幹事（連絡先）　　香高真奈美

締め切り　7 月 31 日（水）まで

●山行の心得

・リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。連れて行ってもらうではなく自主的な意識を持ち参加してください。

・地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきてください。

・参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。

・体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングを行うようにしてください。

●遭難対策積立金

7 月 1 日以降のすべての山行において遭難対策積立金として一人当たり 200 円を徴収して積立をしていきます。

●「自然学クラブ」を立ち上げました。

「山って何だろう」など自然を多角的に見つめ、巡検・研究する同好会です。公益事業として実施します。

問い合わせは三木雄三へ。

●ウオーキングクラブの設立

参加希望の方は会員登録をお願いします。

問合せ先：杉本正夫

印刷　三陽メディア株式会社